

秋色の 英雄

無料
公演

市民響 × 森口真司

府中市民交響楽団

Shinji Moriguchi・指揮

ウェーバー 歌劇『オベロン』序曲

C.M.v. Weber : Oberon Overture

ヒンデミット 交響曲「画家マティス」

P. Hindemith: Symphony Mathis der Maler

2022年

ベートーヴェン 交響曲第3番 変ホ長調「英雄」

L.v. Beethoven: Symphony No.3 in E-flat Major "Eroica"

9月25日

日(日) 13:15 開場 / 14:00 開演

府中の森芸術劇場 どりーむホール 入場無料・全席自由

14:00 start, Sunday, September 25th, 2022 at Fuchu-no-Mori Theater "Dream Hall"

政府及び東京都の要請等により入場者数に制限を設けさせていただく場合は、Webサイトにてお知らせ致します。

- 小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。
- 点字チラシとプログラムをご用意しております。詳細は当団 Webサイトをご覧ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場にあたってのお願い
 - ・体調のすぐれない場合のご来場はご遠慮下さい。・ご入場の際に検温・手指消毒のご協力をお願い致します。
 - ・会場内ではマスクを着用し、咳エチケットへのご配慮をお願い致します。
 - ・花束を含む出演者へのプレゼント、面会、楽屋口での出待ちはご遠慮下さい。
 - ・会場で名前とお連絡先の提出にご協力をお願い致します。



お問い合わせ : info@fuchu-cso.org / 大橋康廣 042-368-6180 <https://www.fuchu-cso.org/>

主催 : 府中市・府中市芸術文化協会 共催 : 公益財団法人府中文化振興財団 主管 : 府中市民交響楽団 協力 : 点訳ボランティアてまり

この秋

のプログラムは、巨匠ベートーヴェンが自ら最高傑作と認めた交響曲第3番「英雄」と共に、同世代のウェーバー、そして20世紀を代表するヒンデミットと、ドイツ生まれの名曲を集めました。「英雄」についてはご存知の方も多いと思いますので、ここでは敢えて、ヒンデミットの交響曲「画家マティス」をご紹介します。

1895年にドイツで生まれたパウル・ヒンデミットは、ヴァイオリン奏者、ヴィオラ奏者、作曲家、指揮者、教育者、と様々な顔を持つ。「画家マティス」の交響曲は、当時ベルリン・フィルの音楽監督であったフルトヴェングラーの委嘱により作曲されたが、ヒンデミットは並行して同名のオペラも完成させている。

タイトルの「マティス」は、フランスで有名なアンリ・マティスではなく、ドイツ人のマティアス・グリュネヴァルト（本名：ゴットハルト）のことである。彼の代表作である16世紀の作品「イーゼンハイム祭壇画」をモチーフにヒンデミットは3つの楽章を生み出した。祭壇画は現在、フランス北東部ストラスブールの近郊の街、コルマルのウンターリンデン美術館に所蔵されている。

ドイツ国境に近いコルマルは戦災を奇跡的に逃れ、木骨組みの建物や古い石畳が残る美しい街だ。ジブリ映画「ハウルの動く城」のモデルとなったことでも知られている。私もこの街を訪れたことがあるのだが、当時はヒンデミットにもドイツ人のマティスにも全く興味がなく、ただただ可愛らしい街並みを歩き、かつて税関だった建物のセルフ式ワインバーでアルザスワインを何杯か（いや、何杯も）美味しくいただき、広場のギター弾きと子どもたちを眺めながら、夏の一日をのんびり過ごしてしまった。あれほど時間があったのに、美術館を素通りしてしまったことが今となっては何とも悔やまれる…。

…曲の話に戻ろう。



(筆者スケッチ)

第1楽章：天使の奏楽

「イーゼンハイム祭壇画」は観音開きの構造になっていて、表に描かれているキリスト磔刑像の中央から扉を開くと、この曲のモチーフとなったキリスト降誕のシーンとそれを祝う天使たちが現れる。「天使」とあるが、そこにいるのは妖怪っぽい年齢不詳の…？ 変な持ち方の弓で弦楽器を弾きながら不気味にほほえんでいる。

木管楽器に誘われて弦楽器の和音が天から降ってくるような冒頭、トロンボーンによるゆったりした主題は、まさに静かな教会で祭壇画を眺めている気分になる。フルートとヴァイオリンによる第二主題からは一転、チャカチャカと曲は進み、最後は金管楽器総出の響きで締めくくられる。一枚の絵からここまで音楽を膨らませられるとは… 凄い。

第2楽章：埋葬

観音扉の下の部分に描かれた、まさに埋葬されようとしている青ざめたキリスト像をモチーフにしている。4分ほどの短い曲ながら、ヒンデミットならではの不思議な和音が盛り込まれた美しい曲。

第3楽章：聖アントニウスの誘惑

モチーフの絵は第1楽章の絵の中央からさらに扉を開くと右の扉裏に現れる。アニメのキャラクターのような人間サイズの妖怪たちに←聖アントニウスが襲われているなかなか滑稽な絵だが、曲の方は、トロンボーンが吠えまくり、巨大な怪物が容赦なく次々襲ってくるかのようダイナミックだ。

冒頭からもう不気味、ジャジャン！と何か飛び出したかと思えば、ヒタヒタと何か近づいては離れていく。中間部、チェロの美しい（美しく弾きたい）メロディがヴァイオリン、ヴィオラへと引き継がれていく弦楽合奏部分は、あらゆる苦悩？時代の闇？あるいは、救いを求める祈りなのか。チャカチャカと進む後半のクライマックスはやはり金管楽器。大聖堂にいるような響きで締めくくりたい。

昨秋の演奏会でバルトークに辟易したばかりだが、このヒンデミットもなかなかの難曲。しかしモチーフの絵があることによって、演奏者もお客様も共通のイメージを持てることは、珍しく面白い体験でもある。3年ぶりとなる森口先生の指揮で、どんな色に仕上がるだろうか。

秋の気配の府中の森で、しばしドイツの風を感じてみませんか。
ご来場、お待ちしております。

デザイン：原田和香〈チェロ〉



指揮：森口真司 Shinji Moriguchi

1964年大阪府生まれ。大阪府立北野高校時代よりオーケストラ活動を始め、京都大学文学部を経て1989年東京藝術大学音楽学部指揮科入学。1995年同大学大学院修了。指揮法を田中良和、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘の各氏に師事する。大学院修了後すぐ「ブラハの春」国際音楽コンクール指揮部門において第3位受賞（1位なし）、同時にブラハの春国際音楽祭に出演しブラハ放送交響楽団を指揮した。以降、東京フィルハーモニー交響楽団、紀尾井シフォニエッタ、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、佼成ウィンドオーケストラ、大阪市音楽団など全国各地のオーケストラに客演する。また岩城宏之氏に認められ、2003年から2年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務めた。在任中は定期公演、オーストリア・ベルギー公演、邦楽とのジョイントコンサート（石川県立音楽堂委嘱作品、多田栄一作曲「時の果てまで」初演）、テレビ金沢開局15周年記念演奏会等数多くの重要な演奏会で成功を収め、堀米ゆずり、リディア・バイチュ（ヴァイオリン）、ルドヴィート・カンタ（チェロ）、崔岩光（ソプラノ）、森山良子、加藤登紀子、山本邦山（尺八 人間国宝）など多彩なソリストと共演した。

オペラ指揮者としてこれまで30を超す作品を100回近く指揮し、大田区民オペラ・ベリーニ「ノルマ」（三菱UFJ信託音楽賞 受賞）ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」、モーツァルト劇場・オッフェンバック「シュプルーリ氏のサロンコンサート」「りんご娘」（日本初演）などが各方面から絶賛されるなど充実した活動が続いている。また東京二期会を中心に若杉弘、飯守泰次郎、佐藤功太郎、ジョン・ミュンフン、クラウス・ペーター・フロール、エド・デ・ワールト、ペーター・コンヴィチユニー、宮本亜門など著名な指揮者・演出家のもと、ヤナーチェク「イェヌーフア」ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「さまよえるオランダ人」モーツァルト「皇帝ティトウスの慈悲」「魔笛」「フィガロの結婚」ヴェーバー「魔弾の射手」レハール「メリー・ウィドウ」リヒャルト・シュトラウス「サロメ」「アラベラ」「ダナエの愛」（日本初演）「ダフネ」（日本初演）チャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」など数多くの公演に合唱指揮者として参加、その手腕は極めて高く評価されている。2002年から2009年まで東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスも務めた。

東京藝術大学、くらしき作陽大学、二期会オペラ研究所講師を経て2008年大分県立芸術文化短期大学音楽科に着任する。現在は本拠地を九州に移し、九州交響楽団ベートーヴェン第九交響曲 大分・延岡演奏会、愛媛県合唱連盟50周年記念公演「メサイア」、ひむかオペラ（延岡市）第1回公演「こうもり」、大分二期会旗揚げ公演「魔笛」、福岡県合唱連盟ベートーヴェン第九、ホルトホール大分開館記念演奏会、文化庁・大分県立芸術文化短期大学共催「ヘンゼルとグレーテル」「フィガロの結婚」、世界的バレエダンサー首藤康之氏演出・振付によるバレエ「ドン・キホーテ」「眠りの森の美女」、大分二期会「こうもり」、第33回国民文化祭マラー「復活」など数々の重要な公演の指揮を任されている。現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科教授、大分大学非常勤講師。